

銀の皿

「バックスライド」



バックスライドという言葉 (back-slide) 辞典で調べると、元の不信人や悪癖に逆戻りする：墮落する、とありました。私がバックスライドしていた時期は高校三年生の時でした。皆勤賞目指して毎週欠かさず教会に行っていた私でしたが、この頃、ほとんど行かないようになりました。あの時の気まずさは今でもよく覚えています。自宅と教会が近かったものですから、どうすれば教会の人と会わずに帰宅できるか、タイミングを見計らって帰っていました。時々、ばったり教会学校の先生にあった時も、「気まずい、早く帰りたい」と思い、それこそ私の足のつま先は家に向きながら先生と話していたと思います。

そんな私の家に1枚の葉書が届きました。宛て名を見ると教会からでした。裏をみると先生たちが寄せ書きのように私にメッセージを書いてくれていました。それを見てとても嬉しく思いましたが、気まずさの方が強く教会に行けませんでした。次に一番私と年齢の近い先生が教会のプログラムのプリント (バーベキュウ大会のような) を持って訪問に来てくれました。しかしながらかんだ理由をつけて行きませんでした。もう私の頭の中では、教会にこれからは行かないと決めていたからです。しかしその先生は何度も家に来てくれて、食事に誘ってくれたり、悩みをよく聞いてくれました。そしてある時の事、私の母が病気で入院することになりました。その事を聞いた先生が「一緒にお見舞いに行かせてくれないか？お祈りしたいから」と言って病院に一緒に来てくれました。私はこの時、教会にもう一度行く決心をすることが出来ました。そこまで人に寄り添ってくれるクリスチャンの事をもう一度学んでみたいと思ったからです。（私は皆様の訪問や文書伝道が実を結ぶ事を信じています）

信仰の一歩を中々踏み出せずに挫折してしまう事があります。当時の私は劣等感の塊で自分には価値が無いと思いこんでいました。自己中心になって、イエス様を見失ってしまったのです。そんな風に信仰生活の中で、自分自身に自信が持てなくなる、あるいは人の信仰が輝いて見える。そう思ってしまう時があります。しかしイエス様はそんな私達を愛して本来の価値を思い起こさせてくださいます。逃げても、否定しても、又堕落しても何度も何度も何度も、イエス様は私達を尋ねだして救い出してくださいます。私達は愛されています。その愛によって私達は新しい信仰の一歩を踏み出すことが出来るようになります。共に主を見上げ前進してまいりましょう。

見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

ヨハネ黙示録 3:20

